

大学生生活で得たもの



経済学部学生 原 敦 士



この原稿執筆の依頼を受けてどんな事を書こうかとあれこれ思案していたら、時の経つ速さに対する驚きと多くの事を経験した充実感とか混ざり合った複雑な気持ちになってきた。不安と期待に満ちて臨んだ入学式、知り合ってもない友達と一夜を語り明かした宮島でのオリキャン、最初是要領が分からず何人か集まって一晩がかりで考えた聴講手続き、ノートのコピーや情報収集のため走り回り、一夜漬けの勉強で臨んだ試験、免許取得やアルバイトに没頭した長期休暇、タメイキがあちこちで聞かれた成績発表、飲ませつ飲まされつでメロメロになり千鳥足で薬研堀をハシゴしたコンパ、多忙な勉学の間に友人や先輩、後輩達と楽しいひとときを過ごしたゼミ活動、友人との情報交換を頻繁に行なって慣れないスーツ姿で炎天下、会社訪問に明け暮れた就職活動、そして締切りに追われながら必死に書きあげた卒論……次から次へと楽しかった思い出が頭に浮かんでくる。でもこれらの思い出はただ楽しかっただけではない。人間にとって本当に大切なものは何かをいくつか教えてくれた。そのうち主なものを2つとりあげてみよう。まず一つめは友人、先輩、後輩といった縦横の人間関係がいかに大切なものであるかということである。成績や就職の事などで悩んでいる時に友人や先輩達が励ましてくれた事がどれだけ僕に勇気を与えたか、

またゼミ対抗のソフトボール大会で準優勝した時にどれだけ団結力の強さ、すばらしさを実感したことか。今から考えると“学歴こそすべて”と割り切り、テストの結果に一喜一憂していた高校時代までの自分がとても器の小さいつまらない人間のように思えてくる。二つめは、何事も積極的に自分の力でやらなければいけないということである。高校時代までは親や学校がいろいろカバーしてくれたが、大学に入って親から遠く離れた所で独り暮らしを始めるとそうはいかず、身の回りの事はすべて自分でやらなければいけない。長期休暇中の日程は、アルバイト・旅行などとあらかじめ計画を立てておかないと全く空虚なものとなってしまうし、就職活動においてはこちらから会社にどんどんアタックしていかなければとり残されてしまう。また友人を作るのにもそうである。広島大学（特に経済学部）は小・中・高校のようなクラス制度はなく、1、2年次の語学やゼミ、クラブ以外に同じ顔がそろうという事はほとんどない。したがって友人のついでで新しい友人をつくるといった積極的な行動をしなければ、友人のほとんどいない、むなしい大学生活以外の道はない。僕自身この4年間いろいろな友人ができたが、もっと積極的に多くの友人を作れば良かったなあと少しばかり後悔している。身の回りの事などルーズな僕にとってはめんどろでつらいと思ったこともあったが、自分自身を鍛え、積極的な人間形成をするのにとっても役立った。以上述べた2点は僕が大学生生活で得たものとして自信をもって言えるのである。これらの教えをいつまでも忘れずに社会人になってからもがんばって行こうと思う。最後に、これまでお世話になった多くの人々に感謝の気持ちを表して筆をおくことにする。“ありがとう!!”